

# 深刻度評価基準の 対処態勢検討WGにおける検討について

---

2018年3月20日

内閣官房 内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)

# 深刻度評価基準の策定について

## 1. 取組の概要（第4次行動計画別添より抜粋）

重要インフラサービス障害の深刻度や当該障害に関する情報の重要度に応じて影響範囲や対処行動等が異なってくることも踏まえ、関係主体間で認識の共有を図り、迅速な対応要否等の判断に資するため、下表のとおり、重要インフラサービス障害に係る深刻度の判断基準の例を設け、具体化に向けた検討を進める。

## 2. 深刻度評価基準策定の目的

- ① 可視化された深刻度により、発生した事象について関係主体間での共通の理解を助ける（客観性、国際的整合性に留意）
- ② 深刻度レベルを政府の対応を判断する基準とする
- ③ 事象に関する情報共有の体制や方法の基準とする

## 3. 対処態勢検討ワーキンググループ

### 【設置の目的】

重要インフラサービス障害に係るリスクに適切に対処するため、事業継続計画及びコンティンジェンシープランに盛り込まれるべき要点、これらの発動の判断基準及び実行性の検証に係る観点等についての検討を行う。

### 第1期【第1回～第3回】

「サイバー攻撃リスクの特性」の議論

⇒ 安全基準等策定指針の改定に反映

### 第2期【第4回（10/19）、第5回（12/12）、第6回（2/8）】

「重要インフラサービス障害等の深刻度評価基準」の議論

深刻度	国民・社会への影響	システムへの影響	
		非常用系	常用系
レベル5 (危機)	国民生活等に広範かつ著しい影響を与えるおそれが切迫		
レベル4 (重大)	国民生活等に著しい影響を与える可能性が高い	重要インフラサービスの安全性・持続性への影響により評価	重要インフラサービスの提供への影響により評価
レベル3 (高)	国民生活等に明らかな影響を与える可能性が高い		
レベル2 (中)	国民生活等に何らかの影響を与える可能性がある		
レベル1 (低)	国民生活等に影響を与える可能性は低い		
レベル0 (なし)	国民生活等に影響を与える可能性はない		

検討のための素案（2017.4.18戦略本部資料）

（サイバーセキュリティ戦略本部 第14回会合（2017.7.13）資料  
「2020年及びその後を見据えたサイバーセキュリティの在り方について  
～サイバーセキュリティ戦略中間レビュー～」より）

関係主体間で認識の共有を図り、迅速な対応要否等の判断に資するため、重要インフラサービス障害等の深刻度（レベル0：国民生活等に影響を与える可能性はない～レベル5：国民生活等に広範かつ著しい影響を与えるおそれが切迫、といった尺度）の判断基準について、重要インフラ専門調査会等の場における議論を踏まえ、**本年度末までに暫定版を策定し、公表する。**